

かごしま林業普及だより

第13号

(令和5年11月)

目次

- | | | |
|------------------------------|---------------|-----|
| (1) 長崎県五島椿研修を実施 | ・・・【鹿児島指導区】 | 1 頁 |
| (2) 県立川内商工高等学校における木造建築現場等見学会 | ・・・【北薩指導区】 | 1 頁 |
| (3) 始良・伊佐地区「森林のまつり」を開催 | ・・・【始良・伊佐指導区】 | 2 頁 |
| (4) 「森は川の恋人」連携授業の開催 | ・・・【始良・伊佐指導区】 | 2 頁 |
| (5) 曾於市立岩南小学校で第2回森林環境教育を開催 | ・・・【大隅指導区】 | 3 頁 |
| (6) 森林環境教育指導者研修の開催 | ・・・【普及指導部】 | 3 頁 |

鹿児島県森林技術総合センター
普及指導部

長崎県五島樺研修を実施

鹿児島指導区

鹿児島指導区では、6月26日～28日の3日間、管内の樺関係者11名で、樺油の生産が日本一である長崎県五島列島への先進地研修を行いました。今回の研修は、先進地の現状を学ぶことだけでなく、樺実生産者や製油業者、樺油販売者、関係行政から構成された参加者同士の交流を深め、今後、関係者間で連携していける下地を作ることも目的としており、普及指導員としての手腕が問われる研修となりました。梅雨のさなかではありましたが、五島に着くころには雨はすっかり上がり、南からの海風がもたらすモンスーン特有の蒸し返る空気は、参加者の樺への思いを更に熱くするものとなりました。

研修では、南の五島市から北の新上五島町までの「樺実生産→製油→販売」の関係先の視察や、県、各市町、NPOとの意見交換会を実施しました。豊凶の差が激しい樺実生産においては、優良品種の選抜や剪定、断幹等の整備の必要性、労働力の確保など、今置かれている林業の現状に共通する部分も多く、産学官連携による取り組みが必要であることを、関係者間で共有することができました。

また、当研修の1ヶ月後に「長崎県五島樺研修報告会」として、研修内容のふりかえりを行いました。研修参加者は各10分程度、「五島の生産・販売状況はどうだったか」、「自分達の事業はどうするか」、「鹿児島はどうするか」について、それぞれの立場での意見や感想等を発表し、研修に参加できなかった関係者も含めて、さらなる相互理解を深めることができました。

なお、今回の研修や報告会での内容や意見等は、今後「かごしま樺資源利活用促進方針」として取りまとめて行くこととしています。

最後に、長崎県五島地域振興局の対応して頂いた職員の皆様、研修を受入れて対応していただいた地元関係者の皆様に改めて深く感謝申し上げます。（神志那）



研修状況

県立川内商工高等学校における木造建築現場等見学会

北薩指導区

県木造住宅推進協議会が主催する見学会が11月6日（月）県立川内商工高等学校インテリア科1年生33人を対象に行われました。

この見学会は、森林の伐採から製材・プレカット工場、住宅建築中の現場、住宅展示場まで、木材利用の一連の流れを見学することで、木造住宅への関心や理解を深め、次世代につながる住宅関連技能者の育成を目的に毎年実施しています。

協議会から、一連の流れの始めである伐採現場の説明等について協力依頼があり、当地域で積極的に森林整備に取り組んでいる（有）田中林業に現場説明等をお願いしました。

当日は、薩摩川内市陽成町の間伐作業中の現場において、同校OBでもある田中佑樹専務（青年林業士）から、伐採から搬出に至る作業の流れなど、山の仕事について説明して頂いた後に、チェーンソーによる伐倒とプロセッサによる採材のデモを見学しました。

スギが倒れるところを目にした生徒からは大きな歓声が上がっていました。また、最後の質疑では、「間伐する木はどのように選ぶのか」「丸太の価格や一日に何本くらい伐採や玉切りをするのか」といった木材生産に関する多くの質問があり、林業に対する関心の高さを感じました。

今回、伐採現場を見て林業に興味を示す生徒がいることを改めて確認したことから、今後も普及活動の一環として森林環境教育推進事業を活用した現地見学会等を行っていきたいと思います。

（村岡英樹）



作業状況の見学



見学会実施状況

始良・伊佐地区「森林のまつり」を開催

始良・伊佐指導区

当指導区では、イベントを通じて、森林の大切さや木のぬくもり・木の良さを知ってもらうために、毎年、森林・林業・木材業関係者等による「森林のまつり」を開催しています。今年は、10月22日（日）に霧島市で開催しました。

イベントは子供中心の内容で、小物入れ等の木工教室や、松ぼっくりを使ったクリスマスツリーや木製時計づくり等の木工クラフト、成長の記録になるスギ板を使った手型の切り抜き、鋸を使った丸太切り競争、椎茸のつかみ取りなど、それぞれ行列ができるほどの盛況ぶりでした。

特に、恒例の餅まき大会（模擬上棟式）では、どこからともなく多くの方が集まり、子供も大人も楽しそうに餅やお菓子を拾っていました。餅にはあらかじめ当たりくじを付けていたので、その後の当たりくじを引いた方達によるじゃんけんによる景品争奪も盛り上がりました。

また、森林・林業に関するパネル展示やチェーンソーアートの世界チャンピオンによる実演など、多くの方が森林の恵みや木のぬくもりを感じることでできたイベントになったと考えています。

今後もこのようなイベントを通じて広く森林・林業をPRしていきたいと考えています。
(鶴田 正輝)



木工クラフト



丸太切り競争

「森は川の恋人」連携授業の開催

始良・伊佐指導区

令和5年9月22日（金）と同27日（水）に始良市立竜門小学校6年生11名を対象に「森は川の恋人」連携授業を開催しました。

この授業は、森と川が密接に連携しながら私たちの生活に多くの恵みをもたらしていることを知り、自然環境保全の大切さを学んでもらうため、自分たちの街にも豊かな森や川が残されていることを体験するなど、林務係と水産係の普及指導員が連携して実施しています。

まず、22日は「森のおはなし」として林業普及指導員が説明を行い、自分達が住む街の森林や森林のはたらき等について学習しました。次に「川のおはなし」として鹿児島大学水産学部教授による「故郷の川・網掛川とそこに住む魚について知ろう」と題して河口で見られる魚類やニホンウナギの一生について学習しました。また、実際に網掛川で捕獲されたニホンウナギについても学習を行いました。

27日は「川の生き物学習会」として、鹿児島大学水産学部教授の指導の下、事前に設置されていた石倉籠の中に住み着いていた水生生物をいけすに移して観察会を実施したところ、ニホンウナギやエビ、カニ、チチブ、カワアナゴといった生き物を確認でき、最後に全員で養殖アユの放流活動を行い、無事に活動を終えることができました。

なお、12月に「森の体験活動」として植樹活動を計画しており、児童達に関心を持ってもらえるような体験活動にしていきたいと考えています。
(永野 昌伸)



森林のはたらき（座学）



川の生き物の観察

曾於市立岩南小学校で第2回森林環境教育を開催

9月29日（金）、曾於市立岩南小学校で、第2回目の森林環境教育を実施しました。

今回は、スギ板を使って1年生はコースターづくり、5年生は本立づくりをしたところですが、今回はスギ板がどのようにして作られているのかということ学習するため、志布志市の外山木材株式会社志布志工場を訪問しました。

工場の方案内で、はじめに、丸太がスギ板の製品になるまでを各工程ごとに説明していただいたのですが、子ども達以上に先生方が興味津々で見学しているのが印象的でした。

その後、木質バイオマスボイラーやチップ製造についても説明を受け、木材を余すことなく使用することで、エネルギーとしての木材利用や循環型社会の形成に貢献していることを学習したところです。

子ども達は、工場の大きさに驚きつつ、製材品やチップに触れながら、木材の様々な利用方法について実感したようです。

また、先生が乾燥前のスギ板が積み重ねられているところを通った際、「外なのに意外と涼しいですね。」とおっしゃったのが私自身今まで感じたことがなかったので驚きでした。

約1時間の見学でしたが、子ども達から工場の丸太の量や1日あたりの生産量についてなど、様々な質問も出て、今回の学習をきっかけに、木材や郷土についての理解を深めるきっかけとなれば良いなあと感じた次第です。（岩智洋）

大隅指導区



施設内見学状況



スギ板についてのお勉強

森林環境教育指導者研修の開催

当センターでは、森林環境教育の指導者育成を目的に、小中学校の教職員を対象に、森林環境教育の意義や体験活動手法等を習得する、「森林環境教育指導者研修」を毎年実施しています。

今回の研修実施に当たり、県内の小中学校から受講生を募集したところ、小学校の教職員8名の参加がありました。

室内研修では、鹿児島大学農学部附属演習林の井倉准教授による「環境教育の目的・内容・意義」と、鹿児島大学総合教育機構共通教育センターの福満准教授による「自然体験活動の意義と学校教育」について講義を行いました。講義では「子供たちには何よりもまず体験させることが大事」、「自然環境と生活との関係を直接的に学ぶことが重要」など多くの事例を交えた内容で、受講生たちは熱心に聞き入っていました。

室外研修では、福満准教授と県森林・林業教育指導員森山氏を講師として、自然体験野外プログラムによる体験活動であるネイチャーゲームを行い、「私はだれでしょう」、「森のインタビュー」、「わたしの木」など5種類を体験しました。このゲームは、子どもたちが五感を使って自然と触れ合うことで森林への理解や関心が深まり、感受性が高まるなどの効果が期待できる内容となっており、学校でもすぐに活用できるようなプログラムでした。受講生は子供時代にタイムスリップしたように、どのネイチャーゲームも楽しく興味深く取り組んでいました。受講生からは、「総合的な学習の時間等を利用して、学校等で子供達と一緒に取り組んでみたい。」などの声も聞かれ、好評でした。

今後も小中学校で即実践できる体験活動が学べるような充実した研修になるように取り組んでいきたいと思っております。

普及指導部



ネイチャーゲームの状況

(重森宙一)